

3年ぶりに
対面で開催!

第33回福井県公民館セミナー（後期）

令和4年12月16日(金) 福井県生活学習館 総参加者数 52名

今回のセミナーでは、令和4年3月からYouTubeで配信されている「第33回全国公民館セミナー」の様々な講義動画の中から2つをピックアップ。2つの会場でそれぞれ視聴した後、少人数のグループに分かれ、テーマに沿って討議を行いました。

第1分科会（参加者数26名）

「公民館の空間をデザインする」

講師 日本大学生産学部建築工学科
元教授 浅野平八氏



浅野氏の講義動画を視聴



グループ討議と発表の様子



第33回福井県公民館セミナー

第1分科会は、福井県生活学習館101・102学習室において、「公民館の空間をデザインする」をテーマとして、講義動画の視聴とグループ討議および討議内容の発表を行いました。

講師は建築計画専門の工学博士で、特に公民館建築に関する多くの原著論文や著書がある浅野平八氏。豊富な資料を基に、建築学的な見地から、公民館にはどのような空間が望ましいかについて語られました。

動画視聴の後、受講生が5つのグループに分かれてテーマに関する討議を行い、最後に討議内容を発表していききました。建物内部の細部に関するデザイン論ではなかったため、「話が大きすぎて自館に置き換えるのが難しい」との意見もありましたが、「公民館を建築デザインという観点から考えたことがなかったのでも新鮮であった」「耐震やバリアフリー化などで大規模改修を計画している公民館にとっては大変参考になるはず」との意見も出されました。「場は関心が創る」を基本に、公共空間としての公民館を考える良い機会となりました。

ふりかえりシートより

- 一人では観ることがないセミナー番組だったので、多くの人と共有することは有意義ですね。
- グループ討議で印象に残ったのは、どの職員の方も地域の方に公民館に立ち寄ってほしいと日々考え、工夫している姿でした。
- 初めての対面の講習でしたが、色々な公民館の人達とお話することができて、ほんとよかったです。
- さまざまな公民館の意見交換を聞いたらどんな公民館なのか気になって、時間がたりなかった。
- ワークショップ形式で実施して欲しい。今回の話し合いで得るものが多かったの…。
- ロビーで人々が集まり、ロビーで関われる公民館にしたい。
- 既存の施設を建て替えることはできないが、考え方を変えて、人が来てくれるように工夫したい。

第2分科会（参加者数26名）

「アフターコロナ」「ウィズコロナ」時代の社会教育

講師 神奈川大学法学部
特任教授 小山竜司氏

第2分科会は、「アフターコロナ」「ウィズコロナ」時代の社会教育」をテーマに、福井県生活学習館映像ホールにおいて実施しました。第1分科会と同様に、講義動画の視聴とグループ討議を行いました。

講師は、長年にわたって雑誌『月刊公民館』に社会教育や生涯学習に関する記事を連載されている小山竜司氏。学習とは人格の成長・変容そのものであるからコロナ禍であっても止まることはない、と強調されました。また、これからは公民館だけでなく、様々な部署や団体、機関と連携しながら地域に合った活動を行っていく時代であると語られました。



▲ 小山氏の講義動画を視聴



▲ 開講式はTeamsで2つの会場をつないで行いました

▲ グループ討議と発表の様子

ふりかえりシートより

- オンラインで遠方の講義を聞き、その後、県内の各地の館との意見交換は良かった。
- 各地域の課題や悩み、取り組んでいる事例など情報を共有し合い、ヒントを得ることもでき、対面で討議しあえた事で気軽に質問出来たのでよかった。
- 『「生涯学習」は不要不急では決していない』コロナになって何もできない、とあきらめた感が強かったが、この言葉で目が覚めた。
- 公民館の価値が低いからコロナで休止した訳ではない。生命・健康>経済・仕事>教育・学習であっても学ぶことを止めることはない。仲間を増やそう。
- 生涯学習は学習する人々の側からとらえた概念である。提供者は誰か問題ではない。
- 時代の流れ、社会の変化に対応する社会教育講座、活動が大切。地域を一番知っているのは公民館。その地域にあった取り組みを。

